

2023年5月31日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社石井鐵工所に「SDGs推進シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取CEO：福留 朗裕）は、株式会社石井鐵工所（代表取締役社長：石井 宏明）に「SDGs推進シンジケーション」を実施いたしました。

「SDGs推進シンジケーション」は、シンジケートローン実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する商品です。

今回対象となりました、株式会社石井鐵工所については、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 燃料アンモニア・水素等の大型貯蔵タンクやCO2貯留用タンクの開発を通じた、カーボンニュートラルに資する技術開発の促進

目標 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
目標 13 気候変動に 具体的な対策を	13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

- ② 社有地の有効活用を通じた、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりへの貢献、再生可能エネルギーの導入拡大

目標 11 住み続けられる まちづくり	11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

三井住友銀行では、「SDGsシンジケーション」により、本業を通じ、SDGsが達成される社会の実現に貢献をしております。



<PS 式アンモニア低温タンク>

燃料として利用するアンモニア(燃料アンモニア)は、燃焼してもCO₂を排出しないゼロエミッション燃料であり、地球温暖化対策において有効な手段の1つとなっています。当社では安全かつ大規模にアンモニア貯蔵を行うためのアンモニア低温タンクを数多く納入しております。近い将来に実現が期待される石炭火力発電への混焼やアンモニア発電などにより需要拡大が予想されるアンモニアの貯蔵に関して、そのニーズにお応えするとともに、さらなるタンク大型化による効率化などを通じて貢献してまいります。



<液化炭酸ガス球形タンク>

カーボンニュートラル実現のため、現在さまざまなCCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage:CO₂の分離回収・有効利用・貯留)に関する研究開発、実証実験が行われています。当社は炭酸ガス貯蔵を行うための液化炭酸ガス球形タンクを数多く納入しております。CCUS設備に必要となる炭酸ガスの貯蔵に関して、そのニーズにお応えするとともに、さらなるタンク大型化による効率化などを通じて貢献してまいります。



<太陽光発電事業>

当社では、社有地の立地条件を活かし、高齢者施設や保育園、物流施設等を誘致する不動産事業を展開し、高齢者が生き生きと暮らすことができる地域を創出するとともに、子育て中の親たちが働きやすい環境の整備に貢献しています。また、自社の建物や社有地への太陽光発電設備の設置を進め、太陽光発電事業により、再生可能エネルギーの導入拡大に寄与しています。

<ご参考>

※ SDGsとは

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上